

① 干し柿

○宍道湖

○干し柿小屋

㊦ 神在祭が行われている頃、
松江市の東出雲町では、
ほし柿の生産が最盛期を迎えていました。

○集落ロング

㊦ ほし柿の産地、畑地区は
標高およそ200メートルの
山間地にあります。

○柿をもぐ

㊦ 23戸の小さな集落ですが、
そのほとんどの家で
ほし柿を生産しています。

○枝切り

㊦ こここの柿栽培は、
今からおよそ450年前、
戦国時代の毛利軍によって
伝えられたと言われています。

○皮むき

㊦ 皮むきはヘタ周りだけ機械ですが、
あとはすべて手作業。
見事な手さばきでむいて行きます。

○蔓むすび

㊦ 皮をむいた柿は、1本の蔓に
10個結ばれます。

○吊るす

㊦ 干し小屋で柿を干すのは
この農家のご主人、
森廣公一さんです。

<p>○本殿屋根</p> <p>○本殿</p> <p>○人々</p> <p>○出雲大社入口</p>	<p>93 平成25年の春。 60年に一度という平成の大遷宮。 真新しい檜皮葺きの大屋根が姿を現しました。</p>
<p>② エンド</p> <p>○柿を吊るす</p> <p>○干し柿商品</p> <p>○干し柿小屋</p> <p>○そのUP</p>	<p>90 年末、森廣さんは、 干し柿を出雲大社に 毎年、奉納しています。</p> <p>森広 「私の家は出雲屋敷と言いましてね、 出雲の大国主命に地所を守ってもら つてると、屋敷を・・・、毎年、年貢 を納めるんですよ、その年貢と一緒に この干し柿を年末にもっていきまし てね、そのお札をもらって帰りまして、 神さん棚に備えて、日々、拜んで、まあいわゆる豊作祈 願をして・・・」</p> <p>91 これが天日干しにこだわった 畑地区の干し柿です。</p> <p>92 主に贈答用の高級干し柿として 出荷されています。</p>

○神楽殿早朝

94 いま出雲大社は、
新しい時代を迎えようと
しています。

○神楽殿人々

95 頓原の人々が
丹精込めてつくった
神楽殿の大きなしめ縄も
その一つです。

○汐汲みの人々

96 この大きなしめ縄の下で、
これからも人々の心と心を結ぶ縁、
つまり絆が、たくさん生まれる
ことでしょう。

○稲佐の浜夕景

○夕陽UP

○ナレーター	ナレーター 田畑智子
○題字	題字 矢野春潮
○取材協力	取材協力 JA島根中央会 JAくにびき JAいずも JA斐川町 JA雲南
○取材協力	取材協力 出雲市 飯南町 出雲大社 飯南町しめ縄クラブ 神迎の道の会 そば荒木屋 佐太神社 畑ほし柿生産組合
○制作協力	制作協力 島根県立古代出雲 歴史博物館
○製作著作	製作著作 一般社団法人 家の光協会
○スタッフ	企画 小瀬村泰人 撮影 長谷川徹 及川英俊 秋元聖嗣

音声

副枝保孝

須崎 哲

吉川和浩

音効

工藤靖史

C G

添田岳利

オフライン

秋房慶光

E E D

神戸英夫

M A

高橋 誠

制作補

松岡祐一郎

ディレクター

湯澤 晃

演出

丹尾 誠

プロデューサー

柴田 泉